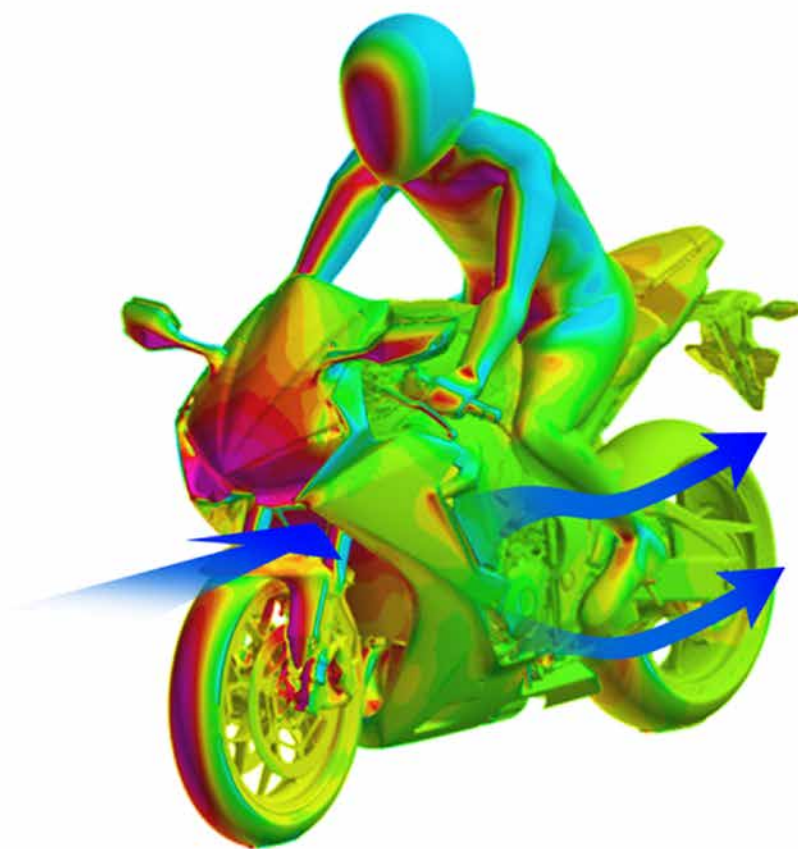


●居住性と運動性能の向上

フューエルタンク形状の見直しにより、ニーグリップ部の幅を従来に比べ左右で30mmスリム化し、ライダーによる荷重コントロールの自由度を向上。また、ミドルカウル側面のラジエーター排風口を上下に分けることで、上側の排風をライダーの足外側に、下側の排風をライダーの足下を通し、ライダーの居住性を向上しました(特許出願中)。アッパーカウルとミドルカウル上部で構成される左右の開口部により、前面投影面積の最小化を図りながら防風機能と操縦フィールを両立しています。

■エアマネジメントイメージ図



また、よりタイトに各カウル面を内側に追い込むことでコンパクト化を図り、マス集中化に寄与しています。アッパーカウルの最大幅を、従来に比べ左右で24mm、同じくミドルカウルを18mmスリム化しました。さらに、アッパーカウルの面形状やヘッドライトの面傾斜、アッパーカウルとミドルカウル上部で構成される左右の開口部のサイズや各カウル端末部形状などは、実走によるチューニングを重ねて作り込みました。これらにより、軽量コンパクト化に加え、ヨー慣性モーメントの低減を図り、旋回初期の倒しこみや車体を左右に切り返す際の軽快感を格段に向上させました。